

# BS Medical Express 47

～ ベルシステム24が、お客様の課題解決のお役に立てるよう、医療関連の最新情報をお届けする月刊誌です。～

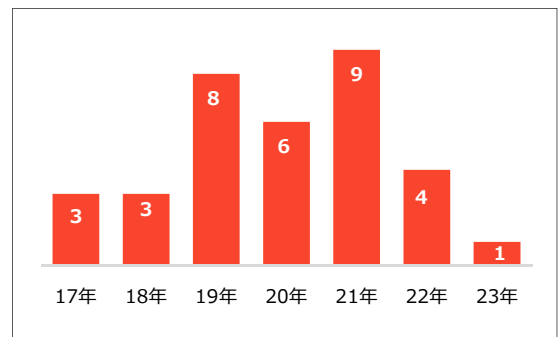
## 徐々に広がる地域医療連携推進法人

## Industry Trends

医療機関相互間の機能の分担・連携を推進し、地域医療構想を達成するための一つの選択肢として創設された地域医療連携推進法人、2017年に制度開始以降徐々に広がりを見せており、今年4月1日現在、34法人が認定されている。法人化により参加施設が独立性を保ちながら▽病床の融通、▽債務保証、▽資金貸付、▽人事交流、▽医薬品・医療機器等の共同購入—といった業務が可能となる。今年に入っても2月に秋田県内の3つの医療法人が、3月に北海道広域西紋地区5市町村の医療機関が地域医療連携推進法人を設立することで合意したとの報道があり、徐々に全国に浸透している。

地域医療構想の取組みを巡っては、少子高齢化の進展や医療の担い手の減少、コロナ対応における課題等も踏まえ、限りある医療資源や人的資源を有効に活用することが重要であり、現行の制度を見直し、個人開業医も含めた医療機関がヒトやモノの融通を通じた連携を可能とする新類型を設ける方向性が昨年11月の社会保障審議会・医療部会で示された。また、厚労省は7月、共同購入に際しての参考となるフォーミュラに関し、作成の基本的な考え方や医薬品の選定についての考え方を示した「フォーミュラの運用について」の通知を発出するなど、行政の動きも進む。フォーミュラを巡っては広島県の地域医療連携推進法人「備北メディカルネットワーク」で広島県がモデル事業として採用、日本フォーミュラ学会も協力して地域フォーミュラの導入を進める動きがあり、今後の動向が注目される。

図 地域医療連携推進法人の年次推移



出典:厚労省HP「地域医療連携推進法人制度について」を元に作成  
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000177753.html>

## 無医地区、減少傾向も全国で550カ所以上

## Government Watch

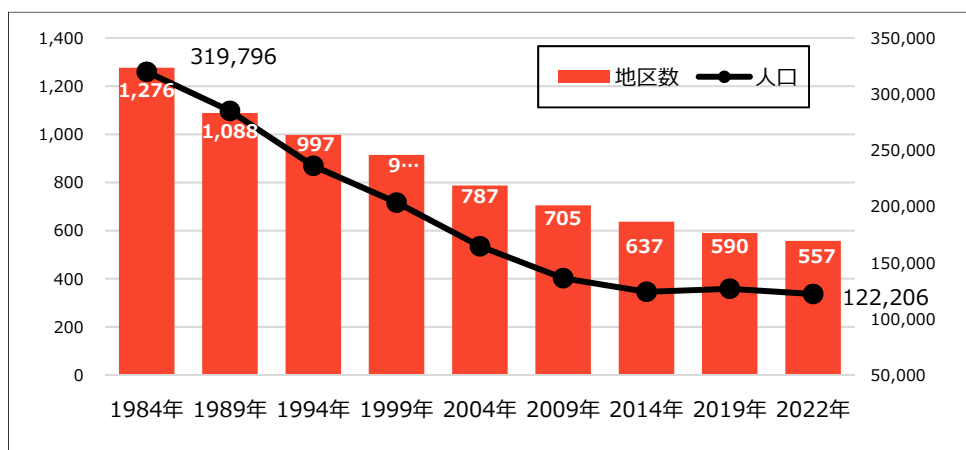
厚労省は7月28日、2022年度の「無医地区等調査および無歯科医地区等の調査」を公表、昨年10月時点で、無医地区は557カ所、無医地区に居住する人口は12万2,206人であり、減少傾向が続いている。

無医地区が多い都道府県は▽北海道(64カ所)、▽広島県(53カ所)、▽大分県(38カ所)、▽島根県(28カ所)、▽岩手県(24カ所)の順で、これら道県で全体の約4割を占める。また、無医地区がない都府県は▽山形県、▽埼玉県、▽千葉県、▽東京都、▽神奈川県、▽大阪府、▽佐賀県—の7都府県に留まるなど地域格差が課題である。

2025年を目指した地域医療構想の実現に向けた取り組みが進められているが、25年以降も少子高齢化の進展が見込まれ、さらに人口減に伴う医療人材の不足、医療従事者の働き方改革といった対応が求められる中で、実効性のある医師偏在対策の着実な推進が求められている。

※無医地区とは、地区の中心的な場所を起点とし、概ね半径4キロメートルの区域内に50人以上が居住している地域で、かつ容易の医療機関を利用できない地区

図 無医地区数と無医地区の居住人口の年次推移



出典:厚労省7月28日公表「令和4年度無医地区等及び無歯科医地区等調査」を元に作成  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_33299.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_33299.html)

6月21日、国連の研究組織「持続可能な開発ソリューション・ネットワーク」は、持続可能な開発目標(SDGs)の17の目標に対する達成度合いである「SUSTAINABLE DEVELOPMENT REPORT2023」を発表、フィンランドが3年連続で1位となるなど引き続き北欧諸国が上位を占めた。

北欧諸国は▽学校教育を通じて地球環境問題や持続可能性を学ぶ機会が豊富である、▽一般市民の当事者意識が高く、持続可能なライフスタイルが定着している—など、2015年のSDGs採択以前から持続可能な社会作りに取り組んでいることが高ランキングを占めた背景とされる。一方、新型コロナ感染症によるパンデミックの発生や、ロシアのウクライナ侵攻を契機とした経済安全保障リスクなどにより、世界のSDGs指数は3年連続で後退、予想以上に停滞していることが露呈された。

報告書では、SDGsの進捗を回復させるためには、パンデミックや戦争を集結させ、「資金を確保するための国際的な協力が必要」とし、グローバル・ガバナンスと世界的な金融の構造改革の必要性を強調している。

表:国別SDGs達成度ランキング(2020-2023年)

国名	2023年	2022年	2021年	2020年
フィンランド	1	1	1	3
スウェーデン	2	3	2	1
デンマーク	3	2	3	2
ドイツ	4	6	4	5
オーストリア	5	5	6	7
フランス	6	7	8	4
ノルウェー	7	4	7	6
チェコ	8	13	12	8
ポーランド	9	12	15	23
エストニア	10	10	10	10

国名	2023年	2022年	2021年	2020年
英国	11	11	17	13
クロアチア	12	23	14	19
スロベニア	13	15	9	12
ラトビア	14	14	22	24
スイス	15	8	16	15
スペイン	16	16	20	22
アイルランド	17	9	13	14
ポルトガル	18	20	27	25
ベルギー	19	18	5	11
オランダ	20	17	11	9

日本	21	19	18	17
----	----	----	----	----

出典:持続可能な開発ソリューション・ネットワーク「Sustainable Development Report2023」<https://www.sdgindex.org/>

## 文献投稿について

## Message From Our Business

弊社社員の文献が国際医薬品情報へ投稿されました。

●タイトル:売上規模別にみる国内上場30社のパフォーマンスの分析

雑誌名:国際医薬品情報2023年8月14日号 通巻第1231号

執筆者:ベルシステム24 第1事業本部 塚前 昌利

<https://www.kokusaishogyo.co.jp/kokusaiiyakuhinjoho/20238141231.html>

※文献に関する問い合わせは、弊社HPの「お問い合わせ」よりご連絡ください。

<https://www.bell24.co.jp/ja/inquiry/index.html>

### BS Medical Express No.47

発行日:2023年8月31日(毎月最終営業日発行)

企画編集:塚前 昌利

(日本医薬経営コンサルタント協会 認定登録 医薬経営コンサルタント)

発行部署:株式会社ベルシステム24 第1事業本部 営業企画部

お問合せ:[iyaku\\_mkt@bell24.co.jp](mailto:iyaku_mkt@bell24.co.jp)